

令和元年12月期子牛セリ市結果

JAえびの市管内	今回(元年12月)		前回(元年11月)			前年(30年12月)		
	頭数	平均価格	頭数	平均価格	増減	頭数	平均価格	増減
メス	89	734,837	58	764,841	△30,004	120	758,421	△23,584
去勢	118	805,656	94	866,191	△60,535	137	856,069	△50,413
計	207	775,207	152	827,518	△52,311	257	810,474	△35,267

◎畜産関係◎

☆12月期子牛セリ市結果

12月12日～14日までの3日間、子牛セリ市が西諸畜連で開催されました。成績は別表の通りです。

子牛セリ市終了後の事故が多発しています。解約や値引き等発生しないように生産者の皆さんは、飼養管理には充分注意して下さい。子牛生産検査以降に発生したケガや尿石等の事故、その他小さなことでも気付いた点は、担当者に相談するか、またはセリ市上場時に必ず発表するようにお願いします。

去勢子牛で発育の良いものは早期出荷を行い、飼育費の削減を図り所得の向上に努めましょう。雌子牛については、積極的に品評会に出品し、付加価値の高い優良素牛生産に努めましょう。

今後も、各種導入事業の有効活用を図り優良雌子牛を導入し、母牛の増頭、更新を積極的に行いましょう。お問い合わせは畜産課(☎333-5747)までお願いします。

☆12月期郡子牛品評会

12月5日、西諸畜連で郡子牛品評会が開催されました。

JAえびの市管内からは7頭が出品されました。成績は別表の通りです。(敬称略)

☆12月期JA主催子牛品評会

11月26日、JA畜産センターで、12月期子牛品評会を開催しました。成績は別表のとおりです。(敬称略)

JA品評会については、事前に下見をします。出品希望のある方は畜産課(☎333-5747)までお問い合わせください。



令和元年12月期JA子牛品評会成績

	名号	出品者(敬称略)
優等賞	たまや	遠目塚了
壹等賞1席	あみ	堀辰也
壹等賞2席	第8373べっぶ	坂元一貴
壹等賞3席	はなこ	宮原暎雄
壹等賞	みか	黒朮康男
〃	まき	中村友哉
〃	第7あみ	坂元一貴
貳等賞	このみ	竹下俊廣
〃	ふじ	野田安弘
〃	べにつばき	山里育代
〃	くるみ	竹下忍

※壹等賞3席以降の序列はつけてありません

令和元年12月期郡子牛品評会成績

	名号	出品者(敬称略)
優等賞12席	たまや	遠目塚了
壹等賞	あみ	堀辰也
〃	第8373べっぶ	坂元一貴
〃	はなこ	宮原暎雄
〃	第7あみ	坂元一貴
貳等賞	みか	黒朮康男
〃	まき	中村友哉

※壹等賞・貳等賞は序列はつけてありません

JAえびの市は、人権啓発推進事業に取り組んでいます。

JA主催冬季肉牛枝肉共励会 (ミヤチク開催)

12月4日、令和元年度JA主催冬季肉牛枝肉共励会が(株)ミヤチク高崎工場で開催されました。市内の肥育農家ら12人が去勢23頭雌牛1頭を出品し、二宮利営さんの枝肉が1席に選ばれました。

二宮さんの枝肉は「ボリューム感がある。皮下脂肪が少なく、バイヤー好み。大きなロース芯にまんべんなくサシが入っており、肉質がよい」と講評されました。

全体の成績は、上物率100%で、平均枝肉重量528.1kg、平均単価はkgあたり2,773円で取引されました。



令和元年度JA主催冬季肉牛枝肉共励会

生産者 (敬称略)	性別	血統			生年月日	体重 (kg)	枝肉 重量 (kg)	等級	B M S	単価(円)	入賞 区分
		父	母の父	母の祖父							
二宮 利営	去勢	耕富士	秀菊安	勝平正	H29年1月6日	877	565.1	A5	12	3,700	1席
神田 譲市	雌	耕富士	菊福秀	忠富士	H29年4月24日	787	512.2	A5	12	3,600	2席
下屋 日出夫	去勢	耕富士	福之国	大将	H29年8月6日	823	558.3	A5	12	3,500	3席

春節、東京オリンピック・パラリンピック大会等に向けた 口蹄疫等に関する防疫対策について

これから迎える春節に加え、2020年は東京オリンピック・パラリンピックが開催されます。平成22年以降、国内での口蹄疫発生はありませんが、現在も中国や韓国では発生が確認されています。今後、オリンピック等に伴い、アジア地域における人・物の移動が盛んになり、日本への口蹄疫等の病原体が侵入するリスクが高くなることが予想されます。

下記の事項について再度確認し、口蹄疫等の発生未然対策をお願いします。

1. 毎日の健康管理で、異常があれば 早期通報を!

飼養牛に以下のような異常があるのを発見したときは、直ちに獣医師や最寄りの家畜保健衛生所へ連絡してください。(都城家畜保健衛生所/0986-62-5151)

牛の症状:発熱、食欲不振、ヨダレを流す、口・ひづめ・乳房の水ぶくれ等

2. 牛舎周りの石灰の散布は

車両の消毒や長くつの消毒になります。また、牛舎の存在を周囲に知らせることで、防疫ラインの目印になり、内外の立ち入り者に対して、防疫に対する意識付けにつながります。

3. 正しい方法で効果のある消毒を行いましょう。

①消毒は農場を守るために大切です。

消毒をすることで、外部からの細菌やウイルスなどの病原体の侵入を防ぎ、法定伝染病や子牛の下痢等の発生を防ぐことができるほか、場内で発生した病気の蔓延を防ぐこともできます。

②正しい消毒が実施されていないと十分な効果が得られません。

・消毒液につける前に水洗いをしましょう。

糞などの有機物が付いた状態で消毒をしても十分な効果が得られません。糞などを洗い落としてから、消毒を行いましょう。

・酸性とアルカリ性の消毒薬を混ぜないでください。

口蹄疫ウイルスはpH6以下の酸性やpH9以上のアルカリ性で感染力がなくなります。

酸性のビルコンは、アルカリ性の石灰の混入等があると消毒効果は落ちてしまいます。ビルコンの場合は消毒槽に入る前に、糞も石灰も落としておくことが大切です。

正しい消毒の実施で、効果のある消毒を行い、農場を守りましよう!!

「大丈夫」 一人じゃないよ 僕がいる

営農情報報



☆イチゴ

(担当…山下賢)

本作の収穫や栽培管理だけに気を取られがちですが、すでに次作の育苗は始まっています！無病親株の確保がいちごの安定生産には不可欠です。育苗床の消毒も行いましょう。

電照時間

今後の電照は、いちごの生育を考えた電照時間に変更します。晴れの時は生育状況に合わせて2〜4時間行い、曇りの時は、照度に合わせて時間を短くします。

また、時間の長短については、見た目の草勢で判断せず、芯葉展開時の葉柄長と展開葉のバランスによって判断して下さい。

温度管理

午前中 25〜28℃
午後 20〜25℃
夜 7℃以上
(灰色カビの多発しているところの夜温は10℃設定)

暖房機のノズルは近頃交換しましたか？ 黒い煙が出て不着火になつているところがありますので、注意して下さい。

◎園芸関係◎

二重資材は、雨・雪であっても毎日必ず開閉して下さい。

摘葉、果梗の除去

収穫が終了した果梗や下葉は、早めにハウス外へ除去します。極端な葉かぎは草勢低下につながるため、枯葉を葉かぎする程度として下さい。



☆栗

(担当…朝倉)

老木樹は主枝を3本程度にして、亜主枝は1本あたり2〜4本程度に剪定を行いましょ。

結果母枝については、大玉果生産につながるよう、太さ8ミリ以上、長さ50cm〜80cm以上を、樹冠1平方メートル当たり4〜5本にするように整理しましょう。



☆キンカン

(担当…朝倉)

「たまたま」出荷解禁日が令和2年1月14日と決定しました。傷果・うるみ果に注意を払った選別を行い、出荷をお願いします。



☆玉ねぎ

(担当…中村)

毎年、強風によってマルチがはがれる事例が見られますので、定期的な圃場の確認をお願いします。また、排水の整備が出来ていない圃場は雨が多くなる前に対策を行います。



良質・大玉の玉ねぎを栽培するポイントの中に、株元の雑草防除があげられます。圃場によって発生する雑草の種類は様々ですが、除草の際に玉ねぎの株も動いてしまふような大きさになってからの除草は玉ねぎの生育を遅滞させてしまいます。根張りの強い雑草は特に注意し、小さいうちの除草を徹底しましょう。

☆ピーマン

(担当…山下陽)

3月から定植が始まりますので、前作の片付けが未完了の方は早急に取り掛かり次作の準備を行いましょ。



片付け完了後は、施肥、畝立て、マルチ張り、土壌消毒などの作業

遅れないように計画立てて準備を進めていきましょう。

☆加工ほうれん草

(担当…中村)

厳寒期となりました。ほうれん草の成長が緩慢な場合には液肥での葉面散布を行いましょ。

害虫の発生では、アブラムシの発生も見られますので早めの防除をお願いします。また、収穫時の異物混入がないように収穫を行います。



☆ちぢみほうれん草

(担当…梅木)

収穫が始まっています。収穫の際には1袋の重量が160g前後を目安として袋詰めを行って下さい。

製品作りの注意点として、雑草、豆葉、枯れ葉、虫などの混入に注意し、洗わずに袋詰めを行いましょ。



☆人参

(担当：梅木)

収穫期をむかえています。収穫が遅れるとしみ腐れなどの地下部の病害が発生しやすくなりますので適期収穫に努めてください。



☆白ネギ

(担当：梅木)

収穫が始まっています。白ネギは出荷調整に時間がかかるため、計画的に作業を行います。



A品の出荷規格は、全長58cm、軟白部が30cm以上で、葉身径が1cmから2.5cm以上(S〜2L)になります。

根切りについては、盤茎(根本部分)を深く切りすぎないように5mm程度は残すようにしましょう。

また、葉の調整は病害虫・枯れ葉を取り除き、3枚を残して出荷してください。58cmに満たない葉は、枚数に含まれませんので注意してください。

☆キャベツ

(担当：山下陽)



春作に向けての準備期間となります。

自家育苗をされる方は、品種の特性を押さえて時期に見合った適正な品種選定を行い、収穫予定日より逆算して計画的な播種を行います。

ましょう。また、苗の注文も受け付けていますので希望される方は農産園芸課まで早めの注文をお願いします。

☆加工甘藷

(担当：梅木)



県内の南那珂地域で甚大な被害をもたらしている「かんしょ茎・根腐敗症」の発生が西諸管内でも確認されました。地際部が黒変し、被害が進行すると地上部が枯死し地下部も腐敗してきます。

次年度の発生を抑えるため、残渣の持ち出しを行った上で分解ヘルパーか石灰窒素を散布して圃場に残った根や茎の腐塾が進むよう耕運を行ってください。

また、自家苗を作られる方は育苗床の消毒と種芋の選別・消毒をお願いします。特に褐変しているものや軟化しているものは種子芋として使用しないようにしてください。

来年度に向けての作付計画の検討や早目の圃場準備をお願いします。なお、新規で作付けを希望される方は早めの連絡をお願い致します。(担当 梅木：33-5756)

分解資材…

分解ヘルパー 45kg〜60kg/10a
石灰窒素 30kg/10a

育苗床消毒…
バスアミド微粒剤・キルパー・

クロルピクリン

種芋消毒…

ベンレート水和剤・種芋粉衣

トップジンM水和剤…

200倍〜500倍

20分〜30分種芋浸漬

☆ゴーヤー

(担当：中村)



圃場内に残った枯れあがった株やつる等の片付けを行い、本年度に向けた圃場準備を行います。

令和2年度のゴーヤー作付けを希望される方は農産園芸課(担当中村 33-5756)までご連絡をお願いします

作付希望者を募集しています

各品目の栽培のお申し込み・お問い合わせはJAえびの市農産園芸課(☎33-5756)までご連絡ください。



農業用廃プラスチックについて

農業用廃プラスチックは決められた収集日にだしてください。

◎今月はポリフィルム(マルチ・肥料袋等)の集積を行います。

- ・集積場所 **えびの市一般廃棄物最終処分場**
- ・集積日 **1月21日(第3火曜日)**
- ・時間 **午前9時〜午後4時**

※ ビニールとポリマルチは混ぜないように注意してください。
※ 集積日が休日の場合は、次の日になります。



令和元年産米検査格下げ理由 (表2)

格下げ理由	令和元年度	平成30年度
整粒不足	85.0%	35.2%
形質 (心白及び腹白)	12.5%	60.4%
着色粒(カメムシ類等)	1.1%	1.8%
被害粒 (胴割れ)	1.3%	2.8%
異種穀粒・異物混入	0.1%	0%
合計	100.0%	100.0%

令和元年産米検査結果 (表1)

	令和元年度	平成30年度
【1等米】	8.7%	42.1%
【2等米】	83.8%	57.2%
【3等米】	7.2%	0.6%
【規格外】	0.3%	0.1%
合計	100.0%	100.0%

◎農産関係◎

☆水稻

(担当・内村)

えびの市管内における令和元年度の米検査状況については、表1の通り2等米が中心でした。検査格下げ理由の内訳は表2の通りでありました。また、えびの市を含む宮崎県広域霧島地帯の作況指数は92の不良でありました。

等級格下げ理由の主な要因は次のとおりです。

整粒不足：令和元年度は8月出穂時期以降の日照時間が平年値を下回っている日数が多く、十分な日照量を確保できなかったことで稲の光合成が進まず全体的な充実度に影響を与えたと考えられます。また、本年はトビイロウンカの飛来数、飛来回数ともに非常に多く、平成25年以来の大発生となりました。8月末の時点で市内でも坪枯れる圃場が発生するなど、多くの圃場で生息を確認しました。トビイロウンカは稲の株元を吸汁するため、登熟に影響があったと思われるためです。

形質(心白および腹白)：例年と比較して発生は少ない傾向にありました。これは発生要因となる高温条件の連続した日数が少なかったことが考えられます。しかし、

今年の出穂最盛期が8月21日頃であったことから出穂する時期は早進化している印象を受けます。この頃の出穂では登熟初期がまだまだ高温が続くこと予想されまので水のかけ流しや飽水管理などを実行し、白未熟粒の発生軽減に努めましょう。なお、植付け時期を6月中旬以降にする事も検討いただけたいと思います。

着色粒(カメムシ類等)：令和元年度は前年と同程度の検査結果となりました。カメムシ類による着色粒は出穂後、登熟期間から成熟期間にかけて稲穂を吸汁されると発生します。重点防除の実施や畦畔雑草の除草をすることで軽減することが出来ます。

△近年の稲作環境と品質向上に向けて▽

気象変化に伴う対応はその年その年で難しいものがありますが、依然としてこれからも高温傾向で推移するものと考えられます。本年度の稲作計画を立てる際に、自分の圃場の出穂時期や収穫時期などはどうだったか振り返ってみましょう。それによって植付け時期の見直しを行うなど、今後も予想される高温障害を回避できるように栽培計画を検討しましょう。

また、品質向上を目指すために、事前に圃場の残肥を土壌診断で確認し、バランスのとれた適正な肥料設計を行うように努めましょう。

○土壌診断について

土壌診断は随時受け付けています。植付け時期が近くなると申込みが集中します。早めに依頼をお願いします！(※状況により異なりますが標準で1ヶ月程度かかります。)

- ・一点当たり1000円の診断料が必要となります。
- ・申込み先・農産園芸課(33-5756)

・必ず乾燥した土を提出してください。また自治会、氏名は必ずご記入ください。

《水稻苗の予約外の取り扱いについて》

1月10日のふれあい日より水稻苗・資材申込書を配布しますが、3月1日以降の申込みにつきましては、従来通り予約外扱いとなります。なお、苗の予約をされ、植付け時に不足分が発生した場合、申込みいただいた枚数分の1割分の枚数については予約内単価で対応いたします。

また、申し込みが遅れた苗の受け渡し時期につきましては育苗計画の作成および作業段取りの関係から、希望される田植え日は6月25日以降の受付とさせていただきます。25日以降の受付とさせていただきますのでご理解と期間内での申し込みをお願い申し上げます。

宮農情報

◎担い手支援関係◎

農地の貸し借りでお悩みのあなた！

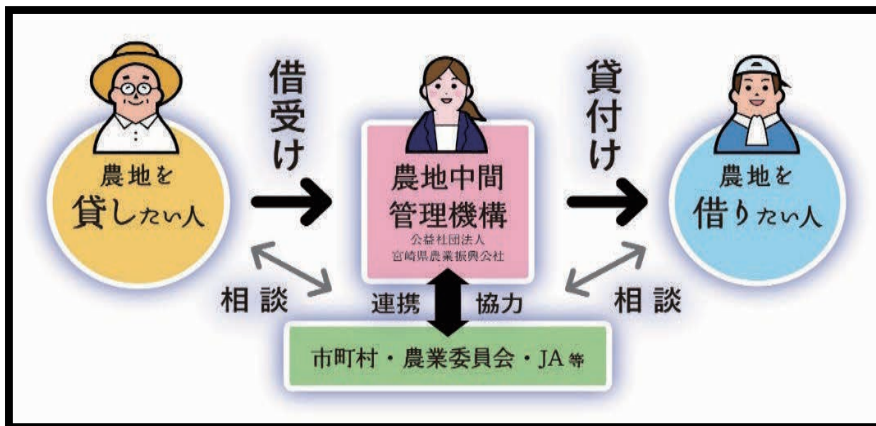
農地中間管理機構 を活用しませんか？



農地中間管理機構(※)があなたの『大切な農地』を借り受け、しっかりとした選定基準の下、『農地を必要としている農家』の方へお貸しします！

また、賃借の手続きや賃料の支払・請求も機構にお任せください！

※農地中間管理機構は、宮崎県知事が指定する公的な機関です。



詳細は、
 えびの市役所畜産農政課
 (担い手対策係 35-3744)
 えびの市農業委員会 (35-3726)
 JAえびの市
 (担い手支援課 33-5758)
 または、宮崎県農業振興公社
 (農地第一課 0985-78-0210)
 までお問い合わせください。

農業経営者組織協議会 (青色申告会)

青色申告での税務申告には多くの特典があります。節税のためにも青色申告を始めましょう。JAえびの市農業経営者組織協議会では、通帳取引の自動仕訳等、会員様の事務負担軽減にご協力させていただいております。

随時会員の募集をしております。ぜひご加入ください。

青色申告の主な特典

- (1) 青色申告特別控除
- (2) 青色事業専従者給与の経費算入
- (3) 純損失の繰越控除 など

青色申告に関することは、お気軽にお問い合わせください。

担い手支援課 33-3104 (担当 山下・内田)

これまでの自己改革の取組み



農業生産の拡大と農業所得向上

★国の事業を活用し新規事業に取り組みました。

- ◎平成29年に**ハウス団地**を建設し、イチゴの産地再生と担い手就農者の育成を図りました。
- ◎平成30年に**JA和牛繁殖センター**を建設しました。(母牛200頭規模の繁殖経営と100頭程度の育成) 畜産農家の高齢化等で母牛の絶対数が減少する中で、妊娠牛の販売や育成牛の安定的な供給により、繁殖農家の負担軽減に寄与し地域の繁殖基盤拡大に貢献しました。また、新規就農者の研修施設としても活用しています。

★「所得アップGO!GO!テン」県下統一運動に取り組みました。

- ◎再度の「特A産地」獲得を目指してICT情報通信技術)を活用した数値化農業へ取り組みました。
- ◎肉用牛繁殖・肥育・酪農、イチゴ・ピーマン・ゴーヤー部会では、部会目標を数値化して取り組みました。その結果、肉用牛繁殖部会では、平成30年度は前年比234頭増の3,793頭を確保する事ができました。イチゴ、ピーマン、ゴーヤー部会では、ハウス環境改善対策や病害虫速報、土壌診断に基づく施肥指導を徹底した結果、品質、反収量の改善が図られました。



えびの市イチゴ団地(平成29年4月完成)



JA和牛繁殖センター(平成30年2月完成)



低コスト農業の確立と生産資材の低減

- ★より良い農産物生産の為に、土壌分析、生産技術講習会、目揃え会、現地講習会など回数を増やして取り組みました。また、残留農薬検査も野菜集荷場取扱で160回、道の駅出荷物に対しては40回回り信頼される農産物取扱に努めました。
- ★**生産資材の価格低減**
- ★全農以下、飼料の銘柄集約による製造体制の効率化、原料価格交渉によるB B肥料の値下げ、近隣他県との共同仕入れによる価格交渉等でコスト削減を図りました。
- ★農薬については、ジェネリック農薬の普及拡大や水稻箱施肥剤・水稻除草剤の10%商品や茎葉処理除草剤5.5%の大型規格商品により割安な価格でのコスト削減を図りました。
- ★生産資材の市況価格については、競合店を含め小売店を定期的に巡回し、小売価格の調査を行い価格の劣勢については、経済連に要請し系統をあげて取り組みました。
- ★農業機械では、生産者の意見を反映して必要な機能を絞り込んだ低価格大型トラクター(全農による共同購入)の取扱、南九州3県の経済連で共同仕入れた割安な農業機械の販売も実施しました。

青年部食育活動
(農家のおじちゃんと語る会)

総合事業で繋ぐ農を基軸とした地域の活性化

- ★**食育活動**の一環としてお米学習教室(市内の小学校で田植え、稲刈り、収穫祭)及び青年部員の農業現場で小学生が農業学習をしました。
- ★**JA女性部によるボランティア活動**
介護施設への慰問や京町温泉マラソン大会での炊き出しなどの地域貢献活動を行いました。また、「南九州駅伝競走大会」では市内から唯一のチーム「道の駅えびの」が出場しました。
- ★多様な総合事業展開で、資産相続などの相談会や年金友の会員のハッピーライフのお手伝い、人生万が一の時の事故処理対応(平成30年度は、顧客満足度が県内JA1位、全国JAでも18位)や葬祭関連事業での専門ディレクターによる真心を込めたお手伝いに努めました。
- ★「道の駅えびの物産館」を拠点とした地域農業の振興と交流人口増加の貢献。
(平成30年の来場者は、1年間で66万人を超えました)

JAグループは取組んできた自己改革について、全国476JAの全組合員(正182万人・准136万人から回答)にアンケート調査を行っているところですが、8/5日にその中間報告が出ました。約8割が自己改革を評価し、約9割が准組合員の利用制限に反対し、総合事業継続を後押しする結果になりました。平成26年6月に閣議決定された規制改革実施計画での農協改革は、令和元年5月31日にその期限を迎えましたが、JAグループは継続して次のステップの自己改革に挑戦して参ります。

JA えびの市は、人権啓発推進事業に取り組んでいます。

第2次 自己改革の取組み

実施期間
令和元年～令和3年

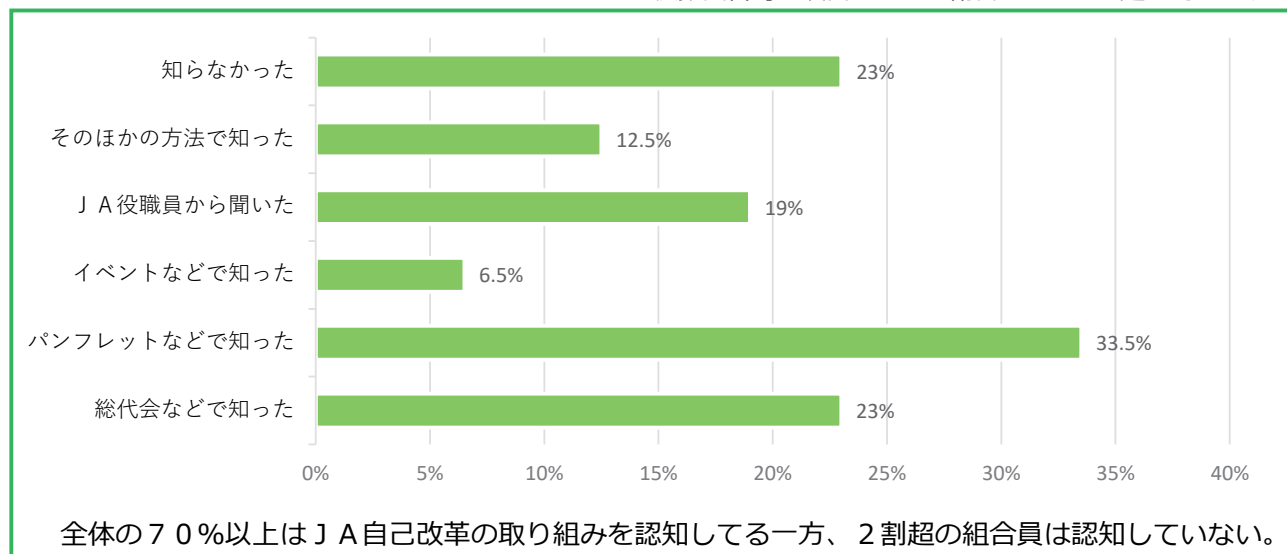


これまで実践してきた自己改革の継続・見直しを基本とし、JAの使命・役割である「農業所得の向上」と「地域活性化」に向けて今後も積極的に取組みます。農業振興への取組みや総合事業の展開を通して、JAと地域社会とのつながりを強化し、地域に必要とされるJAを目指します。

取組事項	取組概要	
所得アップGO!GO!テン運動	<ul style="list-style-type: none"> ・業務加工野菜の取組強化 ・生産者との信頼関係醸成 	<ul style="list-style-type: none"> ・業務加工向け野菜の面積拡大。(目標500t)「キャベツ・ホウレン草・人参・里芋」 ・巡回指導の質と頻度の向上。(1品目2名対応制) ・関係機関と連携した対応力の強化。 ・効率的な巡回指導、適時の情報伝達。
	<ul style="list-style-type: none"> ・農家の労力軽減とコスト軽減 	<ul style="list-style-type: none"> ・バラ飼料、TMR飼料の普及拡大。(オーツヘイ276t/年・TMR1,520t/年) ・フレコンパック肥料の機械散布(255t/年)と銘柄集約によるコスト削減。 ・ジェネリック農薬の普及拡大、大型規格商品の取扱い。
JA総合事業を通じた地域支援	<ul style="list-style-type: none"> ・行政との連携強化(包括連携協定の締結) 	<ul style="list-style-type: none"> ・人口減少・少子高齢化の進展による農業基盤の衰退化や多発する自然災害や家畜伝染病の危機事象に素早く対応していくために関係強化。 ・協同組合活動や多様な総合事業展開が地域のインフラや活性化につながっていることの発信。
	<ul style="list-style-type: none"> ・女性部・青年部活動を通じた地域貢献活動 	<ul style="list-style-type: none"> ・学童の食育活動。 ・認知症サポーターの増員、介護施設への慰問。
	<ul style="list-style-type: none"> ・道の駅「えびの」を通じた農業と地域振興 	<ul style="list-style-type: none"> ・出荷者協議会と連携した安全・安心な農畜産物の提供。 ・えびの特産物と魅力ある加工品・手芸品の陳列。(年間売上目標6億円) ・定期的なイベント開催による集客と交流人口の増加。 ・「ふるさと宅配便」の復活で手作り味噌や地元産の農産物オリジナルお歳暮などの取扱い。
組合員の参加参画の促進	<ul style="list-style-type: none"> ・地域に密着した支店活動と交通事故防止活動 	<ul style="list-style-type: none"> ・専門スタッフによる年金受給に係る諸手続きのお手伝い ・通学時間帯での横断歩道立ち番指導。 ・カーブミラーや横断旗、反射タスキなどの贈呈。
	<ul style="list-style-type: none"> ・組合員との対話と事業への反映 	<ul style="list-style-type: none"> ・総合座談会の内容充実(営農情報提供と対話を重視した意見交換会)と出席率のアップ。(目標出席率40%) ・組合員の積極的な協同組合活動への参加促進。 ・青年部専門部会と営農指導員との意見交換会など。 ・「県域JA構想」に向けた取組みと組合員の意見徴収。
<ul style="list-style-type: none"> ・准組合員へのアプローチ 	<ul style="list-style-type: none"> ・自己改革に関するアンケート調査を契機にJA事業の周知と複数事業の利用促進。 	

自己改革の認知度

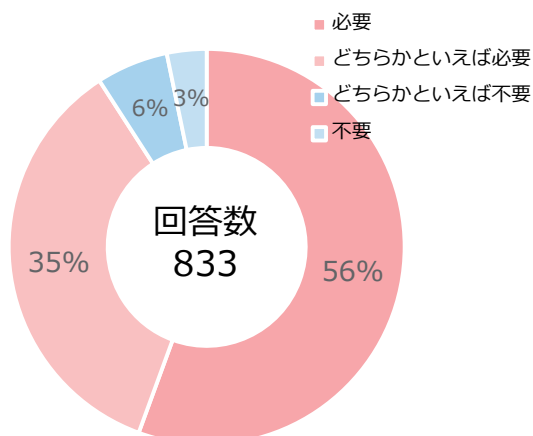
※複数回答可の項目のため、割合が100%を超えています。



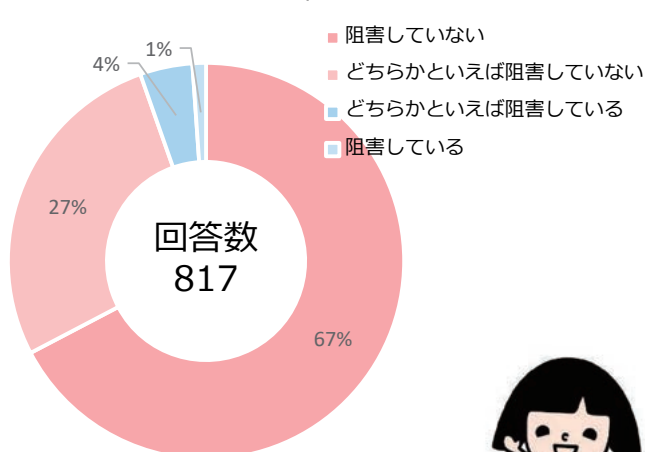
准組合員利用規制

正組合員のみ回答

准組合員の利用の必要性



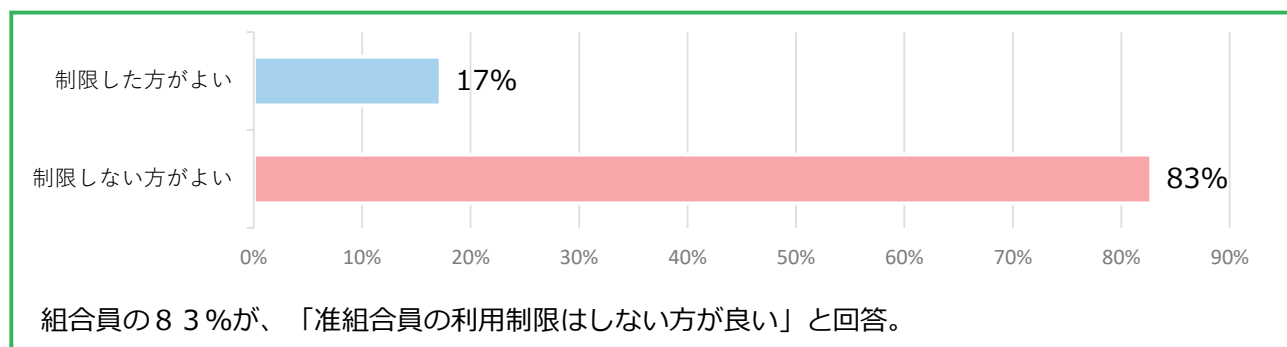
准組合員の利用による障害



正組合員の91%が、准組合員の事業利用が必要と回答している。



准組合員の利用制限



現在第2次調査の結果を取りまとめ中です。アンケート調査結果を基に、更なる組合員の満足度の向上を目指して自己改革を継続して参ります。

アンケート調査にご協力いただいた組合員の皆さまに改めてお礼申し上げます。

JA えびの市は、人権啓発推進事業に取り組んでいます。

「JAの自己改革に関する組合員調査」中間集計結果

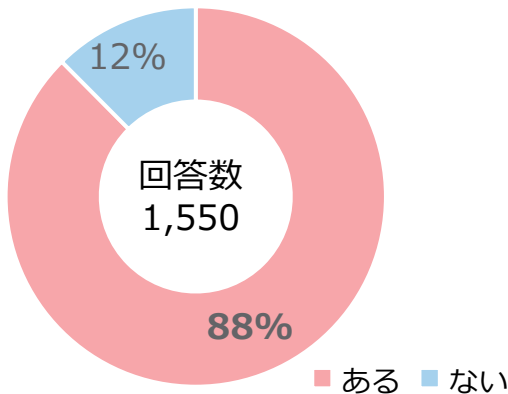
JAグループは、より良い協同組合組織を目指して自己改革を進めています。その成果や実態について組合員の皆さまの評価の把握や関係強化を図るために、全国でアンケート調査を実施しました。

当JAでは平成30年末から無作為に3,000人を対象に第1次アンケート調査を実施しました。そのうち、1,582名の組合員から回答が得られましたのでその結果をご報告致します。

調査の実施状況

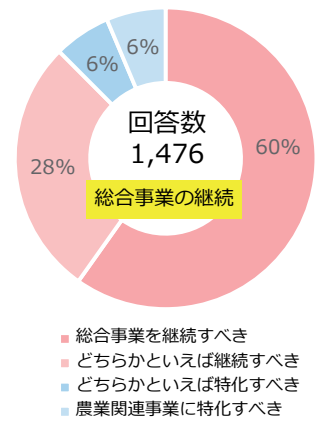
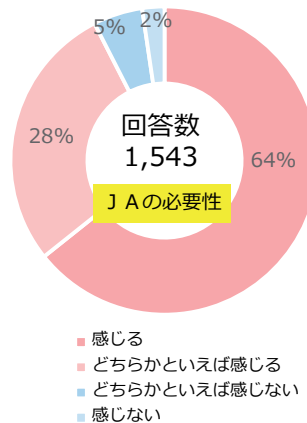
	対象件数	回収件数	回収率
全体	3,000	1,582	53%
正組合員	1,500	922	61%
准組合員	1,500	660	44%

JA事業利用の状況



JA総合事業

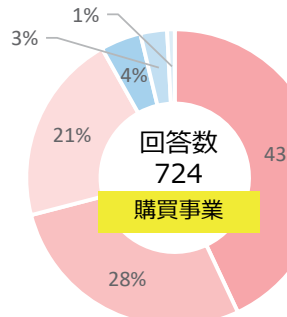
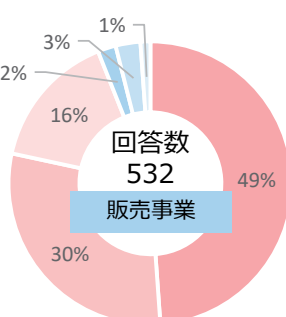
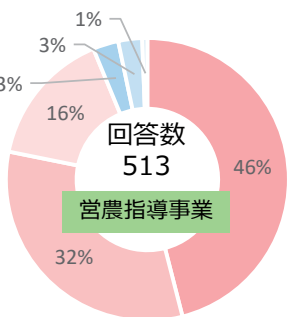
総合事業については、「どちらかといえば」を含め、回答者全体の88%が継続すべきと回答。



自己改革への評価

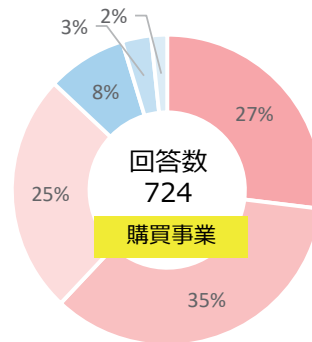
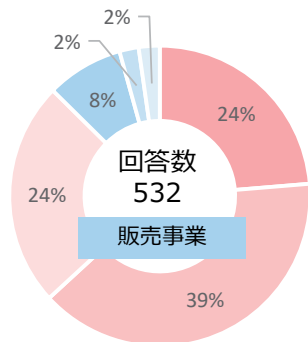
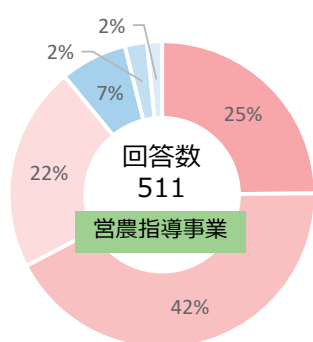
正組合員のみ回答

農業関連事業に対する期待度



農業関連事業（営農指導、販売、購買）に係る正組合員の回答は、7割超が「期待、やや期待」と回答。「どちらかといえば期待」を含めると、9割超の正組合員が期待していると回答。

農業関連事業に対する満足度



農業関連事業（営農指導、販売、購買）に係る正組合員の回答は、6割超が「満足、やや満足」と回答。「どちらかといえば満足」を含めると、8割超の正組合員が満足との回答。